

NPO法人ありんこに
 関する詳しい情報は
 公式ホームページ
arinngo.sakura.ne.jp
 にて公開中！！

ありんこだより

発行 NPO法人ありんこ編集部
 編集責任者 一戸 由佳
 住所 青森県弘前市大字富栄
 字笹崎80-1
 電話 0172-96-2774
 Fax 0172-55-9591

放課後等デイサービス自己評価

放課後等デイサービスのガイドラインが平成27年4月に厚生労働省から出されました。これに基づき各事業所は自己評価を毎年行い、結果を踏まえて翌年の支援の方向性と目的を決定します。

やよいのあかりでも、保護者向けの評価アンケートを毎年実施しておりますが、ガイドラインでは施設職員も自己評価することが求められています。

年末の職員個人面談に合わせて全職員が自己評価を行い、それをもとに面談を実施いたします。

今年度は職員のスキルアップをはかり、地域の他事業所との連携を密にするために、施設見学をさせていただいております。その中で、それぞれの事業所の特色を改めて理解し、違いが判ると同時に、共通する部分もたくさんあることを知ることができました。

今回職員がしっかりと自己評価を行い、それに基づいて客観的に振り返り、来年度は更に良い支援ができるように活用していきたいと思っています。

インフルエンザワクチン接種

いちのへ耳鼻科さんのご協力でインフルエンザのワクチン接種が始まっています。「ありんこだより」を持参していただければ、五所川原市の「いちのへ耳鼻科」で3歳以上の方お一人様1500円で接種できます。流行の声も聞こえてきました。早めの接種をを心がけましょう。

事業所住所変更

特定非営利活動法人ありんこの住所が変更になり、主たる住所が「やよいのあかり」の住所と同じになりました。

これまでの青山の事務所も引き続きありんこ事務所として稼働しておりますが、今後の配布物等は新住所での発送となります。引き続きよろしくお願いたします。

〒 036-8382
 青森県弘前市大字富栄字笹崎80-1



給食注文先決定

10月中にお知らせしていたように、今までやよいのあかりの給食をお願いしていたライフコアさんが、業務の変更に伴い、給食の配達を終了することになりました。

新しい給食の注文先を検討していましたが、このたび、社会福祉法人抱民舎 就労継続支援A型conaさんとの契約が締結し、今後の給食の注文をお願いすることになりました。

11月10日から利用が開始しておりますが、野菜もたっぷりで彩りも良く、子どもたちも楽しく昼食をとっています。

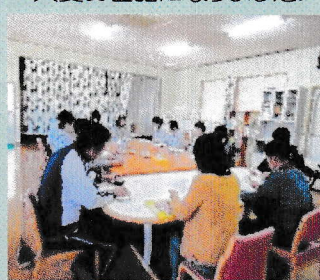


施設見学

11月14日(水)午前中に山郷館デイサービスセンター・ど・れ・みさんにお邪魔しました。

当日は大挙して12名で押しかけましたが、快く受け入れていただきありがとうございます。ど・れ・みさんは肢体不自由児の利用者様が多く、当事業所と並行して利用されているお子さんも多いため、職員たちは施設、設備の見学はもちろん、子どもたちに対しての、日々の支援に関する情報交換がとても有意義だったようです。

地域で放課後等デイサービス事業を行っている場所は増えてきています。複数の事業所を並行して使っている利用者さまにとっては、情報を共有してもらい、支援内容を合わせることは大切なことだと思います。また、今回の交流で、こちらでの様子と異なる一面があることが分かり、新たな発見もあったようです。大変お世話になりました。



大掃除始まる

早いもので、とうとう師走になりました。やよいのあかりでは、11月から職員が手分けをして年末の大掃除にとりかかっています。日々きれいにしていますが、やはり年に一度は、念入りに掃除をすることで、長くきれいに使えると思います。

子どもたちにもお手伝いをお願いしていますが、毎年スキルアップしている様子が見られ、本当に驚かされます。

皆さんのおかげで気持ちよく年が越せることに感謝いたします。どうぞ良い新年を。

理事長のつぶやき

親の心子知らず

私事だが、長男は来年2度目の年男である。まだ大学生で、弘前から離れているので、もともと頻回に連絡を取り合っているわけではない。しかし最近、こちらが用事で送ったメールの返事が非常に遅い。又は来ない。

こちらも用事があって連絡しているのに、かなりしつこく送り続けると、やっと繋がるという感じだ。本人曰く「非常に忙しい」そうで、子どもと言うのは小さいうちは手がかり、大きくなると気がかりである。

そんなこともあり、改めて自分が札幌から弘前に来た時のことを思い出した。

月1万7千円の6畳に流しがついた学生向けのアパート。電話は廊下の赤電話。トイレは共同。シャワーはコイン式だった。

一緒についてきた母は玄関の靴の散乱具合と、部屋の壁の薄さで参ってしまい、これから生活する私を案じていた。

親として、わが子を目の届かない所に送り出すことは、不安が多い。

当時の私はそんなことを考えもしなかった。

新しい友人のアパートを回り、部屋に帰るのは深夜となった。当時は携帯などもなく、電話を掛けてきてもいつも留守で、とうとう両親はある日電報を送ってきた。(笑)

さすがにその時は慌てて公衆電話から電話をして、有料で叱られた。高い説教代となったのである。

家の電話を介してのつながりは、人と人の携帯電話での繋がりととなり、便利になった気もするが、いつの時代も親はわが子を心配し、子はそれに気づかない。

親の心配は続く。